



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Operations Manager i

ソフトウェア・バージョン:10.10

リリース・ノート

ドキュメント・リリース日 :2016 年 03 月 02 日
ソフトウェア・リリース日 :2015 年 12 月(英語版)

利用条件

保証

Hewlett Packard Enterprise の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HPE は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HPE からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

著作権について

© Copyright 2015 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD の矢印記号は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Citrix® および XenDesktop® は Citrix Systems, Inc. および / またはその子会社の登録商標で、米国特許商標庁およびその他の国で登録されている可能性があります。

Google™ および Google Maps™ は、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

iPad® および iPhone® は、Apple Inc. の商標です。

Java は、Oracle およびその関連企業の登録商標です。

Linux® は Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft®, Windows®, Lync®, Windows NT®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

NVIDIA® は、NVIDIA Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

Red Hat® は Red Hat, Inc. の米国およびその他の国の登録商標です。

SAP® は、SAP SE のドイツおよびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次の URL にアクセスしてください：
[https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=.](https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=)

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントを持っていない場合は、HP Passport の [サイン イン] ページで [アカウントを作成] ボタンをクリックします。

サポート

次の HPE ソフトウェア・サポート Web サイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hp.com>

この Web サイトでは、連絡先情報と、HPE ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HPE ソフトウェア・サポートではセルフソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート Web サイトの次の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPE サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID を登録するには、 <https://softwaresupport.hp.com> に移動して [登録] をクリックします。

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE ソフトウェア・ソリューション & 統合 およびベスト・プラクティス

HPE ソフトウェア・カタログの製品がどのように連動し、情報を交換し、ビジネス・ニーズを解決するかを調べるには、HPE Software Solutions Now (<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result/-/facetsearch/document/KM01702710>) にアクセスします。

広範なベスト・プラクティス関連の文書および資料にアクセスするには、Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpin.hp.com/group/best-practices-hpsw>) にアクセスします。

コンテンツ

Operations Manager i リリース・ノート	5
新しい OMi 10.10 のエクスペリエンス	6
OMi 10.10 のインストール	8
インストール時の注意事項	8
OMi 10.10 の新機能	9
ユーザ・エクスペリエンス	9
Web サービスとコマンドライン・インタフェース	9
Monitoring Automation	10
簡素化	10
高可用性	11
OMi Business Value Dashboard	11
OMi 10.10 で変更された機能	13
注意事項および制限事項	14
アップグレード	14
OMi	16
パフォーマンス・ダッシュボード	19
OMi Business Value Dashboard	20
文書の更新	21
ドキュメントの正誤表	22
ローカリゼーション	23
ドキュメントのフィードバックの送信	25

Operations Manager i リリース・ノート

ソフトウェア・バージョン :10.10

発行日 :2015 年 12 月 (英語版)

本書は、Operations Manager i(OMi)10.10 に加えられた変更点の概要です。

本書では、次の内容について説明します。

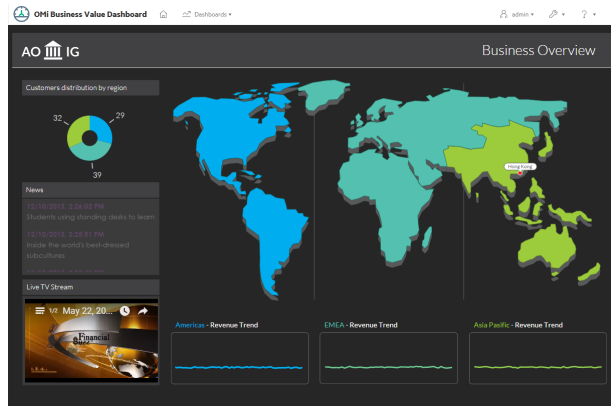
- 「OMi 10.10 のインストール」(8ページ)
- 「OMi 10.10 の新機能」(9ページ)
- 「OMi 10.10 で変更された機能」(13ページ)
- 「注意事項および制限事項」(14ページ)
- 「文書の更新」(21ページ)

サポート・マトリックス

サポート対象環境やほかの製品との互換性については、Operations Manager i サポート・マトリックスを参照してください。サポート・マトリックスはリリースの公開前後に更新される場合があります、次の HPE サポート Web サイトでのみ入手できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/document/KM323488>

新しい OMi 10.10 のエクスペリエンス

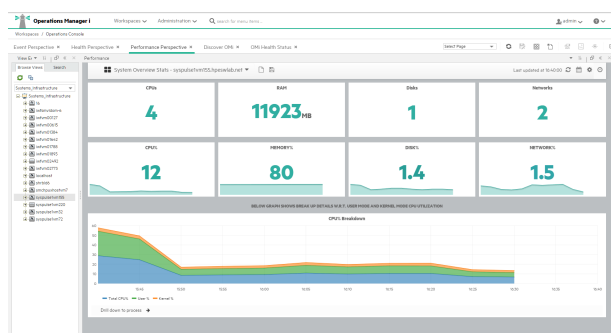
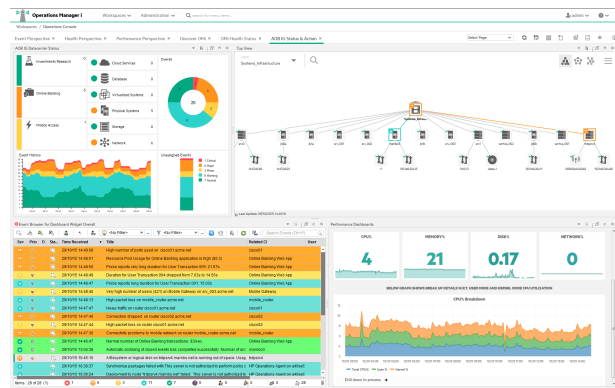


Business Value Dashboard による IT データの色分け

- 場所と時間を問わないデータ表示：遅延がないリアルタイム・ダッシュボードです。
- シンプルでわかりやすく、柔軟に設計できるダッシュボード：Microsoft Visio を使用してダッシュボードを設計します。
- 接続：BVD にアップロードすると、ウィジェットをデータに接続できます。
- 統合：あらゆる種類のデータを JSON 形式で処理します。

直観的な HTML5 ユーザ・インタフェースのエクスペリエンス

- ユーザ・フレンドリ：直観的なユーザ・エクスペリエンスとパフォーマンスの高速化
- 高速：ドリルダウン機能を使用してダッシュボードにすばやくアクセス
- フレキシブル：ダッシュボードとウィジェットの新しい設定オプション



パフォーマンス・ダッシュボードによる分析とカスタマイズ

- シームレスなナビゲーション：プラグインが含まれない HTML5 UI を使用して機能強化されたレイアウト管理
- パフォーマンスの改善：グラフ表示の迅速化と、異なる CI やダッシュボードの間での切り替えを高速化
- 強力な機能：イベント・オーバーレイと埋め込み可能コンテンツ

OMi 10.10の新機能の詳細については、[「OMi 10.10の新機能」\(9ページ\)](#)を参照してください。

OMi 10.10 のインストール

OMi 10.10 のインストール・ファイルは次の場所にあります。

HPE_OMi_10.10_for_Linux.zip

HPE_OMi_10.10_for_Windows.zip

Operations Manager i のインストール手順については、『Operations Manager i インストールとアップグレード・ガイド』を参照してください。

1. OMi 10.10 のインストール・ファイルとドキュメントが含まれている .zip ファイルを解凍します。
2. [Documentation] フォルダを開きます。
3. HPE_OMi_Installation_and_Upgrade_Guide.htm をダブルクリックして、『OMi 10.10 インストールとアップグレード・ガイド』を Web ブラウザで開きます。

アップグレード : 9.25 以降からアップグレードできます。インプレイス・アップグレードとサイドバイサイド・アップグレードの両方の方法がサポートされています。

インストール、アップグレード、および更新と、OMi のハードウェア要件およびソフトウェア要件の詳細については、『OMi インストールとアップグレード・ガイド』を参照してください。

インストール時の注意事項

- **OMi 10.10 に付属するホットフィックス** : 次の制限を修正するホットフィックスが OMi 10.10 インストール・ファイルに付属しています(ここでは QCCR 変更要求番号で識別されます)。

タイトル : クライアント認証を使用したシステムのコマンドライン・ツールでは、ユーザがユーザ名およびパスワードを入力する必要もあります。(QCCR8D42342)

説明 : Web サービスを使用した OMi にアクセスするコマンドライン・ツール(opr-jobs[.bat|.sh] など)では、キーストアやキーストア・パスワードに加えてユーザ名およびパスワードが必要です。本来ならば、キーストアとキーストア・パスワードのみの指定で十分なはずですが。

ホットフィックスのインストール : この制限のホットフィックスは、OMi 10.10 をインストールした後に、関連する "ReadMe" ファイルの指示に従って、別個にインストールする必要があります。

OMi 10.10 の新機能

ユーザ・エクスペリエンス

- **HTML5 監視ダッシュボード(ドリルダウン機能を含む)** : OMi 10.10 には、監視ダッシュボードのコンポーネントの新しい HTML5 実装が含まれています。ドリルダウン・ダッシュボードを有効にすると、表示中のダッシュボードに関連したダッシュボードにすばやくアクセスできるようになりました。ドリルダウン・ダッシュボードは、それが設定されているダッシュボードと同じコンポーネント内か、同じページ上の別個のコンポーネント内に簡単に表示できます。
- **HTML5 トップ・ビューと状況トップ・ビュー** : トップ・ビューおよび状況トップ・ビューのコンポーネントは、HTML5 テクノロジーを使用して設計されており、これらを使用してシステム・コンポーネントのビジネス可用性を表示できるようになりました。従来の Java ベース・トップ・ビューおよび状況トップ・ビューのコンポーネントは引き続き使用でき、インフラストラクチャ設定で有効にできます。
トップ・ビューおよび状況トップ・ビューの詳細については、『OMi ユーザ・ガイド』を参照してください。Java ベース・トップ・ビューおよび状況トップ・ビューのコンポーネントを有効にする方法の詳細については、『OMi 管理ガイド』を参照してください。
- **HTML5 パフォーマンス・ダッシュボード** : OMi 10.10 には、パフォーマンス・パースペクティブおよびパフォーマンス・コンポーネントの新しい HTML5 実装が含まれています。この実装はパフォーマンス・ダッシュボードと呼ばれるようになりました。パフォーマンス・ダッシュボードは、レイアウト機能が強化され、グラフ表示時のパフォーマンスが向上し、日付パネルが改良され、発生したイベントを表示できるようになりました。また、外部 Web ページでのパフォーマンス・ダッシュボードの埋め込みや、Business Value Dashboard(BVD)へのデータ転送もできるようになりました。
パフォーマンス・ダッシュボードの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『OMi ユーザ・ガイド』を参照してください。
- **ログオン・バナーのサポート** : 特定の法的基準に準拠するには、ログオン・バナーの使用を検討してください。有効にすると、ログオン・バナーにより、システムのログオン時にユーザ向けの注意書または通知が表示され、ユーザは処理を続行できるように[OK]ボタンをクリックしてログオンを確認することを要求されます。ログオン・バナーは[インフラストラクチャ設定]で有効にしてカスタマイズできます。
- **1つのブラウザからの複数の OMi デプロイメント** : シングル・サインオンが無効になっている場合、OMi は同じブラウザ内で複数の OMi デプロイメントに接続できるようになりました。これにより、ユーザはテスト・システムのように1つのブラウザ・タブで OMi システムに接続し、実運用システムのように別のタブやウィンドウで別の OMi システムに接続できます。この場合、ユーザはシステムごとに有効な資格情報を使用して、各システムに別個にログインする必要があります。

Web サービスとコマンドライン・インタフェース

- **アクション Web サービスと opr-agt CLI の拡張機能** : REST ベースのアクション Web サービスにより、インテグレータは1つ以上の監視対象ノードでの任意コマンドの実行、管理対象ノードでのコマンドのキャンセル、管理対象ノードのコマンド・ステータスの取得を行うことができます。
アクション Web サービスとともに、新しい `{-execute_command | -cmd }` オプションが CLI ツール opr-agt に追加されました。このオプションにより、コマンドラインを使用してターゲット・ホストでコマンドを実行できます。

アクション Web サービスの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[拡張性ガイド](#)』>「[Web サービス インタフェース](#)」>「[アクション Web サービス・インタフェース](#)」を参照してください。

opr-agt コマンドライン・ツールの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[管理ガイド](#)』>「[モニタリング](#)」>「[コマンドライン・インタフェース](#)」>「[opr-agt コマンドライン・インタフェース](#)」を参照してください。

- **ユーザ管理 Web サービスと opr-user CLI** : ユーザ管理 Web サービスにより、インテグレータは外部アプリケーションから特定のユーザ管理機能にアクセスできます。たとえば、ユーザ、グループ、またはロールの作成、更新、または削除ができます。

OMi 10.10 には、ユーザ管理 Web サービスとともに **opr-user コマンドライン・インタフェース** が導入されています。このツールを使用すると、ユーザはユーザ、グループ、ロールを手動で管理できます。

ユーザ管理 Web サービスの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[拡張性ガイド](#)』>「[Web サービス インタフェース](#)」>「[ユーザ管理 Web サービス・インタフェース](#)」を参照してください。

opr-user CLI ツールの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[管理ガイド](#)』>「[ユーザ](#)」>「[ユーザ、グループ、およびロール](#)」>「[opr-user コマンドライン・インタフェース](#)」を参照してください。

Monitoring Automation

- **Monitoring Automation の詳細な認証** : OMi 10.10 では、Monitoring Automation の特定の権限が追加されました。これにより、管理者はユーザまたはユーザ・グループが担当する監視機能へのアクセス権のみを付与できます。管理テンプレート、アспект、およびポリシー・テンプレートを CI に割り当てる権限は、作成、削除、編集、および移動とは別に認証されるようになりました。また、管理テンプレート、アспект、および割り当てに関連した権限は、構成フォルダのレベルで付与されるようになりました。ポリシー・テンプレートとその割り当てはテンプレート・グループにより認証されます。

権限の詳細については、OMi オンライン・ヘルプの[[管理ガイド](#)] > [[ユーザ](#)] > [[ユーザ、グループ、およびロール](#)]を参照してください。Monitoring Automation の詳細については、OMi オンライン・ヘルプの[[管理](#)] > [[監視](#)]を参照してください。

- **新しいポリシー・タイプの設定** : Operations Agent 12 および BSM Connector 10.01 で導入された新しいポリシー・タイプは、OMi で設定できるようになりました。また、このポリシー・タイプのオンライン・ヘルプも利用できます。OMi オンライン・ヘルプで、[[管理](#)] > [[監視](#)] > [[ポリシー テンプレート](#)]を参照してください。

簡素化

- **TLSのセットアップの自動化** : OMi 構成ウィザードでは、OMi が Web サーバおよび JMX コンソールへの HTTPS 接続のみを受け入れるように TLS を OMi に設定できます。OMi の証明書を生成できる認証局 (CA) を会社で使用している場合は、それらの証明書を構成ウィザードを使用してアップロードできます。また、設定に必要な証明書を OMi が生成できます。

OMi Web サーバへの HTTPS 通信は OMi 10.10 の新しい標準設定であり、高速設定が適用されると自動的に有効になります。

OMi の TLS 設定の詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[管理ガイド](#)』>「[ハードニング](#)」>「[OMi での TLS の使用](#)」を参照してください。

- **クライアント証明書認証の機能強化** : クライアント証明書認証 (およびスマート・カード認証) の設定は、OMi 構成ウィザードに移動されています。構成ウィザードの新しい[[クライアント証明書の認証](#)]ページにより、クライアント証明書のインポート、失効オプションの設定、およびスマート・カード認証の有効化ができます。

最初に OMi を設定する場合は、クライアント証明書認証を有効にしないでください。クライアント証明書認証を有効にする前に、OMi がすでに設定されていて、スーパー管理者権限を持つユーザが OMi に作成されている必要があります。

クライアント証明書認証は、ユーザが OMi にログインするとき、あるいは Web サービスまたはデータ・コレクタが OMi に接続するときにクライアント証明書が要求されるように OMi を設定します。デプロイメントに応じて、OMi Web サーバまたは使用可能な場合はロード・バランサでクライアントを認証するように OMi を設定できます。

OMi クライアント証明書認証設定の詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[管理ガイド](#)』>『[ハードニング](#)』>『[OMi での TLS の使用](#)』>『[クライアント証明書またはスマート カード認証の構成](#)』を参照してください。

- **スマート・カード認証の機能強化**：スマート・カード認証の設定はクライアント証明書認証の設定と似ています。スマート・カード認証の場合、構成ウィザードで[[スマートカード証明書の使用を強制する](#)]オプションを追加で選択する必要があります。スマート・カード認証ウィザードは、OMi のバージョン 10.10 から削除されています。

スマート・カード認証設定の詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[管理ガイド](#)』>『[ハードニング](#)』>『[OMi での TLS の使用](#)』>『[クライアント証明書またはスマート カード認証の構成](#)』を参照してください。

- **証明書管理および TLS トラブルシューティング・ツール**：コマンドライン・ツール opr-cert-mgmt および opr-tls-config を使用すると、証明書の管理と TLS 設定のトラブルシューティングを行うことができます。

opr-cert-mgmt コマンドライン・ツールを使用して、OMi 信頼済み証明書ストアの信頼済み証明書を管理できます。OMi はサーバ証明書を信頼済み証明書ストアに保存します。ただし、Black Box Communication (BBC) に基づく通信で使用される証明書は除きます。この後、証明書はグローバル信頼済み証明書ストアからゲートウェイおよびデータ処理サーバに配布されます。

opr-tls-config コマンドライン・ツールを使用して、TLS 設定の一時的な無効化 やリセットができます。

これらのツールの詳細については、OMi オンライン・ヘルプの『[管理ガイド](#)』>『[ハードニング](#)』>『[OMi での TLS の使用](#)』>『[opr-cert-mgmt コマンドライン インタフェース](#)』および『[管理ガイド](#)』>『[ハードニング](#)』>『[OMi での TLS の使用](#)』>『[opr-tls-config コマンドライン インタフェース](#)』を参照してください。

高可用性

- **HA セットアップのフェイルオーバー時間の大幅な削減**：OMi 10.10 では、データ処理サーバ(DPS)のフェイルオーバー時間が大幅に削減されました。

これは、バックアップ DPS の高可用性コントローラ・サービスをホット・スタンバイ・モードで実行することによって達成されます。これにより、フェイルオーバー後に高可用性コントローラ・サービスが起動するまで待つことを回避できます。フェイルオーバー時間は、バックアップ DPS システムがほかの DPS から処理を引き継ぐために必要な時間のみに制限されるようになりました。また、関連するいくつかのインフラストラクチャ・パラメータも減少し、標準設定が変更されていない場合は自動的に新しい値に更新されます。

詳細については、『[OMi 管理ガイド](#)』を参照してください。

OMi Business Value Dashboard

OMi Business Value Dashboard(BVD)を使用することによって、OMi データをわかりやすく表示できます。BVD を使用して、柔軟性のあるカスタム・ダッシュボードを作成します。カスタム・ダッシュボードは、OMi やほかのソースからの情報を有益で訴求力のある方法で視覚化します。任意のデバイスを使用していつでもどこからでも

BVD ダッシュボードにアクセスできます。独自の図を組み込み、ステータスを識別する色を付け、リアルタイムで更新できるため、IT 環境で提供される価値ある情報を常に把握できます。

標準設定の OMi を簡単に設定して、次のデータを BVD に送信できます。

- **イベント・ステータス・データ** :送信するイベント・ステータスは、指定した OMi 監視ダッシュボードから収集されます。OMi サーバの `bvd-event-status` コマンドライン・インターフェースを使用して、イベント・ステータスを転送します。
- **KPI ステータス・データ** :KPI ステータスは、指定したビューと関連付けられ、指定した KPI が設定されている、すべての CI から収集されます。OMi サーバの `bvd-kpi-status` コマンドライン・インターフェースを使用して、KPI ステータスを転送します。
- **メトリクス・データ** :メトリクス・データは、OMi のお気に入りグラフから収集されます。メトリクス・データを転送するには、パフォーマンス・グラフ(OMi 10.10 ではパフォーマンス・ダッシュボード)でデータ転送を有効にしてから、エクスポート・データ(または転送データ)のオプションを選択してグラフをお気に入りとして保存します。

BVD は OMi パッケージの一部ですが、独自のインストーラがあります。BVD はゲートウェイサーバまたは別個のサーバにインストールできます。

BVD、および OMi との統合の特定手順の詳細については、BVD のヘルプを参照してください。

OMi バージョン 10.10 より前のオペレーション・ブリッジのライセンスを購入した場合は、BVD を使用するために新しい最新のライセンスを取得、アクティブ化する必要があります。これを行うには、次の手順を実行します。

1. [HPE ソフトウェア アップデート]ポータルで最新のライセンスを取得します。
<https://www.hpe.com/software/updates>
2. [HPE Licensing for Software]ポータルでライセンスをアクティブ化します。<https://h30580.www3.hp.com>
3. 『BVD インストールおよび管理ガイド』の手順に従って、新しいライセンスをインストールします。

OMi 10.10 で変更された機能

- **ダイナミックノード生成** : この設定は標準設定では無効になりました。
- **スクリプト・インタフェースのタイムアウト設定** : すべてのスクリプト・インタフェース(EPI, カスタム・アクション・スクリプト, 時間ベースのイベント自動化スクリプトなど)のタイムアウト設定は必須になりました。アップグレード前にタイムアウト値が"0"の既存のスクリプトは, アップグレード時にタイムアウト値が3000ミリ秒に変更されます。
- **シングルサインオン** : シングル・サインオン・モードは標準設定で無効になっています。シングル・サインオンを有効にするには, [管理]>[ユーザ]>[認証管理]に移動します。
- **RTSM ビュー権限** : RTSM アプレットを起動せずに, RTSM ビュー権限を OMi ユーザ管理画面で直接指定できるようになりました。
- **ライセンス管理** : ライセンス・キーが更新されている場合, [ライセンス管理]画面にオペレーション・ブリッジのエディションのライセンス(Express, Premium, Ultimate)が表示されるようになりました。新しいライセンス構造とライセンス・キーの更新については, OMi オンライン・ヘルプの[管理]>[セットアップと保守]>[ライセンス管理]を参照してください。

注意事項および制限事項

問題および制限事項は、変更要求番号(QCCR)で示されます。公開されている不具合の詳細については、www.hpe.com/software/support にアクセスするか、HPE サポート担当者へ直接お問い合わせください。

アップグレード

タイトル: 10.00 から 10.10 へのサイドバイサイド・アップグレード : 2つのサーバ間でインストール・ディレクトリが変更された場合、ターゲットでバックアップを復元した後、埋め込みの Postgres が開始されません。(QCCR8D43618)

回避策: Postgres バックアップをターゲット・システムで復元する前に、次の手順を実行します。

1. ソース・システムの %OvDataDir%\backup にあるバックアップ ZIP を開きます。
2. この ZIP の db\pgdata を参照します。
3. ファイル postgresql.conf を任意の一時パスに抽出します。
4. ファイル postgresql.conf をテキスト・エディタで開き、古い OMi インストール・パスのすべての項目を新しい OMi インストール・パスに置き換えます。パス・セパレータとして 2 つのバックスラッシュを追加することを忘れないでください。
5. ファイルを保存します。
6. このファイルを、ZIP ファイル内の以前と同じ場所に再度追加し、既存のファイルを上書きします。
7. ターゲット・システムで続行します。

タイトル: 9.26 から 10.10 へのアップグレード : サーバ・デプロイメント設定テーブルの移行中にエラーが発生します。(QCCR8D43577)

回避策: %TOPAZ_HOME%\bin(Windows)または /opt/HP/BSM/bin(Linux)に移動します。upgrade_wizard_common.bat/.sh で、export SERVICE_MANAGER_OPTS= で始まる行に -Duse.dbcontext.cache=false を追加します。

タイトル: アップグレード後に[Backsync : イベントステータスを BSM Connector に同期させる]フラグが設定されていません。(QCCR8D43712)

説明: OMi 10.0x から OMi 10.10 にアップグレードした後、[Backsync : イベントステータスを BSM Connector に同期させる]フラグは標準設定では設定されません。

回避策:

1. アップグレード後に OMi にログインします。
2. [管理]>[セットアップと保守]>[接続サーバ]に移動します。
3. 接続サーバごとに、[一般]タブで[Backsync]チェックボックスを選択します。

タイトル: アップグレード - OMi 9.25 以降からアップグレードした後、LDAP 設定が破損します。(QCCR8D43683)

説明: アップグレード後、グローバルLDAP マッピング設定は元のシステムのように有効になりません。

回避策 : BSM 9.25 以降からアップグレードした後、次の手順を実行して LDAP OMi 環境を実行中にします。

1. **問題** : LDAP マッピング設定が失われます。
解決策 : [管理] > [ユーザ、グループ、およびロール] > [LDAP マッピング設定] に移動し、必要に応じて設定を調整します。
2. **問題** : すべてのグループが「ldap 自動割り当てグループ」とマークされます。
解決策 : [管理] > [ユーザ、グループ、およびロール] > [LDAP マッピング設定] に移動し、自動割り当てに使用すべきでないグループを削除します。
3. **問題** : すべての LDAP ユーザがローカル ユーザとしてマークされるため、ログインできません。
解決策 : [管理] > [ユーザ、グループ、およびロール] > [ユーザの管理] に移動します。LDAP 認証されたユーザである必要があるすべてのユーザを編集し、**LDAP ユーザ** とマークします。
4. **問題** : すべてのグループ・マッピングが、無効な LDAP 接続 "MigratedLDAPConfiguration" を指します。
解決策 : [管理] > [ユーザ、グループ、およびロール] > [グループの管理] に移動します。LDAP グループをマップするために使用されるすべてのグループを編集します。グループ・プロパティの [マップ済みの LDAP グループ] フィールドで、フィールドにすでにある LDAP グループを削除し、正しい LDAP グループ名を入力します。結果のドロップダウン・リストで正しい LDAP 接続があるグループを選択します。
5. **問題** : 無効な LDAP 接続 "MigratedLDAPConfiguration" がアップグレード時に作成されました。
解決策 : [管理] > [認証管理] に移動します。無効な接続 "MigratedLDAPConfiguration" を削除します。

タイトル : 9.x から 10.x にアップグレードした後に、"Java ルールクラスをロードできません"。(QCCR8D43395)

説明 : 9.x から 10.x にアップグレードした後、OMi 状況ステータスのイベント・ブラウザは、"Java ルールクラスをロードできません" というタイトルの重大なエラー・メッセージを報告します。

回避策 :

ビジネス・ルールは、ルール・ロジックを実装する Java クラスを参照します。ビジネス・ルールがコンテンツ・パック内にエクスポートされると、そのクラスはコンテンツ・パックに含まれません。定義済みのコンテンツの場合、通常は関連するクラスが OMi に付属しています。自己開発したカスタム・ビジネス・ルールの場合、関連するクラスがターゲット・システムにインストールされるようにする必要があります。

この Marble エラーは Java クラスが見つからなかったことを警告しています。エラー・メッセージに従い、ログ・ファイル内の `java.lang.ClassNotFoundException` でクラス名が見つかります。クラス名を使用して、"ビジネス・ルール" 管理者ユーザ・インタフェースで対応するビジネス・ルールを見つけることができます。

"カスタム" ビジネス・ルールの場合、そのクラスをターゲット・システムにインストールして、今後のエラーを回避する必要があります。

ビジネス・ルールが"事前定義"であり、BSM 9.x のコンテンツ・パックをインストールしたか、OMi 10 システムを BSM 9.x からアップグレードした場合、そのビジネス・ルールは OMi 10 でドロップされたモジュールを参照する可能性があります。次のオプションを使用します。

1. エラー・メッセージを無視します。これらの原因は非アクティブな残りの 9.x コンテンツですが、OMi 10.x に悪影響が出ることはありません。
2. エラー・メッセージを次のように抑制します。
 - a. [管理] > [監視] > [ポリシーテンプレート] で、[ポリシー管理] > [テンプレートグループ] > [OMi サーバ自己モニタリング] に移動し、"OMi Marble ログファイル" テンプレートを編集します。
 - b. /Rules/ で、ルール番号 4 "Java ルールクラスをロードできません" を選択し、[ルールタイプ] を "一致するルールのイベント" から "一致するルールの抑制" に変更します。または、イベントの重大度を下げることができます。

- c. ポリシー・テンプレートを保存し、そのテンプレートが含まれるアスペクトを更新し、更新したテンプレートをすべての OMi ノードにデプロイするために自動割り当てを更新します。
3. 無効なビジネス・ルールを削除します。個々の"定義済みの"アーティファクトを削除するメカニズムがないため、このソリューションではすべてのビジネス・ルールをクリアし、正しいビジネス・ルールを再インポートする必要があります。
 - a. JMX コンソール(<https://localhost:29000>)にログインします。
 - b. `Topaz:service=repositories_manager` に移動します。
 - c. メソッド `java.lang.String cleanRepositoryTypeDBAndCache` を `customerID = 0` と `repositoryType = rulemap` を指定して実行します。
 - d. ビジネス・ルールが含まれる定義済みのコンテンツ・パックをすべて再インポートします。古い 9.x コンテンツ・パックはスキップします。コンテンツ・マネージャ([管理]> [セットアップと保守]> [コンテンツ パック])を使用して、インストール済みのコンテンツ・パックをリストし、確認することができます。また、コンテンツ・マネージャを使用したインポートや、`ContentManager (.bat | .sh)` コマンドライン・ユーティリティの使用もできます。

タイトル: OMi 9.25 から OMi 10.10 にアップグレードすると、ステージング・エージェントのデータ処理サーバおよびゲートウェイ上にある管理サーバが、実運用ゲートウェイの管理サーバに誤って設定されます。(QCCR8D39011)

説明: このアップグレードでは、ステージング・データ処理サーバの担当管理サーバが、実運用ゲートウェイの担当管理サーバに誤って設定されます。データ処理サーバにあるエージェントは、新しい OMi システムに問い合わせできないため、引き続き古い OMi サーバに問い合わせします。自己モニタリングは機能しません。

回避策:

サイドバイサイド・アップグレード後、マネージャと証明書サーバをデータ処理サーバに次のように設定します。

```
ovconfchg -ns sec.cm.client -set CERTIFICATE_SERVER <FQDNofDPS>
```

```
ovconfchg -ns sec.core.auth -set MANAGER <FQDNofLoadbalancerOrSingleGW>
```

タイトル: デプロイメント・ジョブの管理者画面：アップグレード後にサーバの処理エラーが発生しました。(QCCR8D43843)

説明: バージョン 9.25 データベースに失敗したデプロイメント・ジョブが含まれている場合は、バージョン 9.25 から 10.10 にアップグレードした後にサーバ処理エラーが発生します。

回避策:

イベント・データベースで次の SQL ステートメントを実行します。

```
UPDATE cfg_job SET retry_count=0 WHERE retry_count=null
```

OMi

タイトル: OMi 10.10 を使用すると Firefox がクラッシュすることがあります。(QCCR8D43157)

説明: 古いバージョンの Firefox と Java を使用すると、OMi 10.10 の実行時に Firefox がクラッシュすることがあります。

回避策: この問題は、Firefox と Java の既知の不具合によって生じるため、HPE で修正できません。問題を回避するには、常に、Firefox をサポートされる Extended Support Release(ESR)の最新バージョンに更新し、

Java 8 バージョンを利用可能な最新バージョンに更新します。この不具合の詳細については、次を参照してください。

Firefox で追跡された不具合 : https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=1140616

Java で追跡された不具合 : <https://bugs.openjdk.java.net/browse/JDK-8133523>

タイトル : OMi 高可用性 : マルチ IP アドレス・システムでの Nanny プロセス 'ODB' の起動で問題が発生します。(QCCR8D43637)

説明 : 高可用性セットアップでは、Nanny プロセス 'odb'(プロセス名 'hpbsm_rtsm')は、最初のデータ処理サーバ(DPS)ですでに実行されている場合、2 番目の DPS で開始されません。

回避策 :

次の条件を確認します。

1. データ処理サーバに複数の IP アドレスがある。
2. これらのすべての IP アドレスが、こうしたデータ処理サーバ間の接続で動作しているわけではない。
3. 各 DPS で、ログファイル <OMI-HOME>/log/odb_boot.log を確認し、'GMS:' が含まれる行を探して、その行で physical_address 値を確認する。物理アドレスが、この DPS に接続するためにその他の DPS で使用できない IP アドレスである場合、すべての DPS サーバに次の回避策の手順を適用します。

回避策の手順 :

2 つのデータ処理サーバを停止し、両方のサーバで次の手順を実行します。

1. <OMI-HOME>/bin/odb_run[.sh | .bat] を編集します。
2. SERVICE_MANAGER_OPTS が設定されている最初の行を探します。
3. -Djgroups.bind_addr=<IP-ADDR> をオプションとして、SERVICE_MANAGER_OPTS の -Dalternative.jre.home の直前に空白で区切って追加し、この DPS の正しい IP アドレス(この DPS に接続するためにその他の DPS が使用できる IP アドレス)で <IP-ADDR> を置き換えます。
4. アクティブな DPS を開始します。検証するには、ログファイル <OMI-HOME>/log/odb_boot.log を確認し、GMS: が含まれる行を探して、正しい IP アドレスが使用されていることを確認します。
5. バックアップ DPS を開始します。

タイトル : Monitoring Automation : 編集するポリシー・テンプレートを検索 ウィンドウから開いている間に認証エラーが発生します。(QCCR8D43226)

説明 : [ポリシー テンプレート] 画面 ([管理] > [監視] > [ポリシー テンプレート]) で、リストから [ポリシー テンプレート グループ] を選択し、[検索] をクリックします。結果の検索 ウィンドウで、ポリシー・テンプレートを検索し、選択して、[編集] アイコンをクリックします。認証エラーが表示されます。

回避策 : 検索 ウィンドウを介して編集する代わりに、[ポリシー テンプレート] 表示枠を使用して、編集するポリシー テンプレートまでスクロールし、選択します。そして、[ポリシー テンプレート] 表示枠で [編集] を直接クリックします。

タイトル : LDAP が有効な場合、ログインで @ 記号を使用したユーザはログインできません。(QCCR8D43635)

説明 : LDAP を有効にした場合、@ が含まれるログインを使用したローカル OMi ユーザはログインできません。LDAP を無効にした場合、ユーザは 2 番目の試行でログインできます。

回避策 : ローカル OMi ユーザのログインには @ 記号を使用できません。

タイトル : 純粋な IPv6 環境で opr-config-server デプロイメントの問題が発生します。(QCCR8D43823)

説明： 純粋な IPv6 システムにログイン資格情報を入力すると、ブラウザに空白ページが表示されます。log/jboss7_boot.log には次のデプロイメントの問題が表示されます。JBWEB001103: Error detected during context /opr-config-server start, will stop it.

回避策：

この問題は -Djava.net.preferIPv6Addresses=true によって発生します。この設定は、デュアル・スタック IPv4 / IPv6 を使用した接続サーバに関する問題を修正するために、/etc/profile および application-server/bin/standalone.conf に追加する必要があります。

application-server/bin/standalone.conf のこの設定を省略することにより、opr-config-server デプロイメントの問題が発生しなくなります(ただし、デュアル・スタック IPv4 / IPv6 である接続サーバはセットアップできません)。

タイトル： クライアント認証を使用したシステムのコマンドライン・ツールでは、ユーザがユーザ名 およびパスワードを入力する必要もあります。(QCCR8D42342)

説明： Web サービスを使用した OMi にアクセスするコマンドライン・ツール(opr-jobs[.bat|.sh] など)では、キーストアやキーストア・パスワードに加えてユーザ名 およびパスワードが必要です。本来ならば、キーストアとキーストア・パスワードのみの指定で十分なはずですが。

回避策：

この問題のホットフィックスが OMi 10.10 インストール・ファイルに付属しています。このホットフィックスは、OMi 10.10 をインストールした後に、関連する ReadMe ファイルの指示に従って、別個にインストールする必要があります。

タイトル： OMi RTSM UI を Safari ブラウザから起動するとロード中になります。(QCCR8D42529)

説明： OMi RTSM UI(IT ユニバース・マネージャまたはモデル・エクスプローラなど)は Safari ブラウザでは正しくロードされません。

回避策： この問題は Safari でのみ発生します。この問題が発生する場合は、別の対応ブラウザを使用してみてください。

タイトル： SiteScope テンプレートの再インポート後に SiteScope ポリシー・パラメータが変更されません。(QCCR8D43884)

説明： SiteScope から OMi にインポートしたテンプレートのパラメータを変更すると、テンプレートの再インポート後に変更が保持されません。テンプレートの再インポートにより、ポリシー・パラメータが正常に変更される必要があります。

回避策： インポートした SiteScope ポリシーを削除し、再度インポートします。

タイトル： アスペクト・エディタで[条件値を使用]チェックボックスの選択を解除すると、パラメータの条件値が無効になりません。(QCCR8D43883)

説明： アスペクト・エディタで[条件値を使用]チェックボックスの選択を解除すると、アスペクト保存後に条件値が実際にはドロップされません。

回避策： すべての条件値を削除してから、[条件値を使用]チェックボックスの選択を解除します。

パフォーマンス・ダッシュボード

タイトル: インポートしたグラフ・テンプレートの場合は、CI間で切り替えるとグラフ・タイトルが更新されません。(QCCR1A184311)

説明: グラフ・テンプレートをインポートし、グラフのタイトルにシステム名を指定した場合は、CI間で切り替えるとグラフのタイトルが正しく更新されません。

回避策: グラフ・テンプレートをインポートする場合、グラフのタイトルにシステム名を指定しないでください。

タイトル: [グラフテーブルのインポート]グラフでは、すべてのインスタンスに同じメトリック値が表示されます。(QCCR1A183471)

説明: 同じメトリックを持つ複数のインスタンスを定義する場合に、そのメトリック値とラベルを使用してグラフが正しく更新されません。

回避策: 標準設定では、グラフのラベルは @@[METRIC] として定義されます。クラスの別のインスタンスのメトリックでグラフを定義する場合は、同じメトリック名でグラフの凡例が複製されるため、グラフ・データが適切に更新されません。クラスの別のインスタンスでグラフを作成する場合は、グラフのラベルにインスタンス名を指定して、グラフの凡例を区別することをお勧めします。グラフのラベルを @@[METRIC] - @@INSTANCENAME のように更新することができます。

タイトル: [CIタイプ]ツリーには詳細とは異なる情報が表示され、コンテンツ・パックには解決されていないコンテンツが表示されます。(QCCR8D43630)

説明: コンテンツ・マネージャは見つからないコンテンツに関する警告を表示します。また、[パフォーマンスダッシュボード マッピング]は一部のCIタイプのマッピングを表示しません。

回避策: この問題を解決するには、[OMi ゲートウェイ サーバ]で次の手順を実行します。

1. ブラウザで OMi を起動します。
 2. 同じブラウザで新しいタブを開き、<https://<OMiゲートウェイサーバ>/OVPM/Options.jsp> を起動します。
 3. [キャッシュのクリア]をクリックします。
 4. OMi で[管理]>[操作コンソール]>[パフォーマンスダッシュボード マッピング]に移動します。
 5. [パフォーマンスダッシュボード マッピング]画面がエラーまたは警告なしにロードされるかどうかを確認します。
-

タイトル: コンテンツ・マネージャにより、すべてのカテゴリ・ダッシュボードがCIタイプのファミリー・ダッシュボードに割り当てられていません。(QCCR1A185016)

説明: 標準設定では、コンテンツ・マネージャにより、すべてのカテゴリ・ダッシュボードがCIタイプのファミリー・ダッシュボードに割り当てられる必要があります。

回避策:

1. OMi で[管理]>[操作コンソール]>[パフォーマンスダッシュボード マッピング]に移動します。
 2. [パフォーマンスダッシュボード マッピング]を使用して、カテゴリ・ダッシュボードをCIタイプのファミリー・ダッシュボードに割り当てることができます。
-

タイトル: プロセスのドリルダウン・テーブルにデータが正しく表示されません。(QCCR1A184997)

説明：選択した時間範囲で、同時に実行されている複数のプロセスがテーブルに表示されません。タイムスタンプあたり 1 つのプロセスのみがテーブルに表示されます。

注：この問題の修正は、パフォーマンス・ダッシュボード 10.0 ホットフィックスの一部として利用できます。

OMi Business Value Dashboard

タイトル：操作 / パフォーマンス・エージェントのブート・シーケンス順序が Linux で間違っています。(QCCR8D43242)

説明：Linux のみです。root ではないユーザ・アカウントで実行するように、BVD(および基礎となる Operations Agent のコア・プロセス)を設定できます。リポート後、root ユーザとして Operations Agent のコア・プロセスが再び開始されます。

回避策：これは既知の問題です。HPE サポートに問い合わせてください。

タイトル：ダッシュボードをアップロードすると、ディスク上の SVG ファイルがロックされます(Internet Explorer のみ)。(QCCR8D43318)

説明：Internet Explorer 10 または 11 ブラウザでは、SVG ファイルをアップロードすると、ファイル・システムのファイルがロックされます。たとえば、Internet Explorer で SVG ファイルをアップロードした後、[ダッシュボードの管理] ページで[適用]または[保存]をクリックして Visio からファイルに再エクスポートしてみると、Visio の変更は SVG ファイルに保存されません。

これは、次に示すように、Internet Explorer 10 および 11 の既知の問題です。

<https://connect.microsoft.com/IE/feedback/details/817183/ie10-and-ie11-keep-files-locked-after-uploading>

回避策：アップロードしたダッシュボードを保存した後、F5 を押すなどして[ダッシュボードの管理]ページを更新します。

タイトル：ダッシュボードが部分的にしかズームされません。(QCCR8D43882)

説明：ダッシュボードにズーム・インおよびズーム・アウトすると、ダッシュボードの一部のみがズームされます。ダッシュボードの Visio ソース・ファイルに Visio Design メニューの背景、タイトル、または境界線が含まれているため、BVD でダッシュボードを正しくズームできません。

回避策：この問題を回避するには、Visio の背景、タイトル、または境界線を使用しないでください。代わりに適切な図形を背景に配置し、そのスタイルを適宜整えます。また、タイトルのテキスト図形を使用します。

タイトル：画像が含まれるダッシュボードをダウンロードできません(Chrome のみ)。(QCCR8D43807)

説明：Chrome ブラウザでは、[管理]>[ダッシュボードの管理]ページでダッシュボードのダウンロードが動作しません。これは、2 MB を超える画像が含まれるダッシュボードに影響を与えます。

回避策：Chrome には、次に示すように、データ URI ダウンロードに対して 2 MB の制限があります。

<https://code.google.com/p/chromium/issues/detail?id=44820>

文書の更新

このドキュメントの最初のページに、次の情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号
- ソフトウェア・リリース日

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、www.hpe.com/software/support にアクセスしてください。すべての HPE ソフトウェア・マニュアルを参照するには、[ダッシュボード]>[マニュアル検索]に移動します。

ドキュメントを取得するには、次のように選択します。

1. 製品名。
2. バージョン・リスト。
3. オペレーティング・システム。
4. 優先言語。
5. ドキュメントのタイトル。
6. [開く]または[ダウンロード]をクリックします。

PDF 形式 (*.pdf)のファイルを表示するには、Adobe® Reader がインストールされている必要があります。Adobe Reader をダウンロードするには、[Adobe](http://www.adobe.com) の Web サイトにアクセスしてください。

ドキュメントの正誤表

OMi Business Value Dashboard

タイトル :OMi Business Value Dashboard 設定 マニュアル

説明 :『OMi BVD インストールおよび管理ガイド』の「構成」セクションには、インストール後のBVD設定に使用する config_example.ini ファイルについての説明があります。このドキュメントでは、この.iniファイルで使用するサンプルのパスワードを変更するように勧められていません。

回避策 :config_example.ini ファイル内のパスワードは、パスワード例のみです。.iniファイルのコピーを設定要件に適合させる場合、パスワード例を会社のパスワード・ポリシーに従い変更します。.iniファイルには次のユーザのパスワード例が含まれます。

- BVD データベースに接続してデータを取得するためにBVDが使用するユーザ。
- データベース管理ユーザ(埋め込み PostgreSQL データベースのみ)。
- ビルトインBVDスーパー管理者ユーザ。
- Redis メモリ内データベースに接続するためにBVDが使用するユーザ。

タイトル :OMi Business Value Dashboard ロード・バランサのドキュメント

説明 :『OMi BVD インストールおよび管理ガイド』の「高可用性」セクションには、BVD高可用性デプロイメントのロード・バランサの設定方法の情報がありません。

回避策 :次のようにデータ・プロバイダおよびユーザ・アクセスのロード・バランサを設定します。

- データ・プロバイダ・アクセスのロード・バランサを設定します。
すべてのデータ・プロバイダがロード・バランサの仮想IPにアクセスできる必要があります。ロード・バランサの標準設定を使用しますが、次のように設定します。
 - **持続性** : 持続性をIPベースの維持または **Destination Address Affinity**(ロード・バランサによって異なる)に設定します。これらのオプションがいずれも使用できない場合で、選択肢が**クッキーベースの維持とセッションによるセッション維持をオン**のいずれかの場合、**セッションによるセッション維持をオン**を試行することをお勧めします。
 - **優先度のアクティブ化** : プライマリおよびバックアップBVDサーバの優先度または加重を設定します。プライマリサーバには最も高い優先度番号を、バックアップサーバにはその次に高い優先度を割り当てる必要があります。ロード・バランサはすべてのBVDトラフィックを最も高い優先度のサーバ、つまりプライマリサーバに送信します。プライマリサーバが利用できなくなると、ロード・バランサはすべてのトラフィックを2番目に高い優先度のサーバ、つまりバックアップサーバに送信します。
- ユーザがアクセスできるように、ロード・バランサを設定します。
ロード・バランサの標準設定を使用しますが、次のように設定します。
 - **持続性** : ロード・バランサの標準設定を使用しますが、使用するロード・バランサによって、**セッションによるセッション維持をオン**、または **Destination Address Affinity** の持続性を有効にします。これらのオプションがいずれも使用できない場合で、選択肢が**クッキーベースの維持またはIPベースの維持**のいずれかの場合、**IPベースの維持**を試行することをお勧めします。適切な設定が行われないと、ユーザ・インタフェースが断続的に使えなくなる可能性があります。

ローカリゼーション

HPE は、Operations Manager i 10.10 のローカライズされたソフトウェアを以下の言語で提供します。

- 英語 en
- フランス語 fr
- ドイツ語 de
- 日本語 ja
- 韓国語 ko
- ロシア語 ru
- 簡体中国語 zh_CN
- スペイン語 es

ドキュメントのフィードバックの送信

このドキュメントに関するご意見は、電子メールでドキュメント・チームまでお寄せください。このシステムで電子メール・クライアントが設定されている場合、上記のリンクをクリックすると、件名の行に次の情報を含む電子メール・ウィンドウが開きます。

リリース・ノート(Operations Manager i 10.10)に関するフィードバック

フィードバックを電子メールに追加し、[送信]をクリックしてください。

電子メール・クライアントを使用できない場合は、上記の情報を Web メール・クライアントで新しいメッセージにコピーし、フィードバックを ovdoc-asm@hpe.com に送信してください。

ご意見ありがとうございます。



Go OMi!